



JFMA FORUM 2008 セミナー

「キャンパスFMガイドブック2008」の紹介

-知識創造活動とクリエイティブキャンパス-

JFMAキャンパスFM研究部会

2008.02.14



「キャンパスFMガイドブック2008」の紹介

INDEX

「ガイドブック2008」の編集概要

「ガイドブック2008」の内容紹介

「第1章プロローグより」

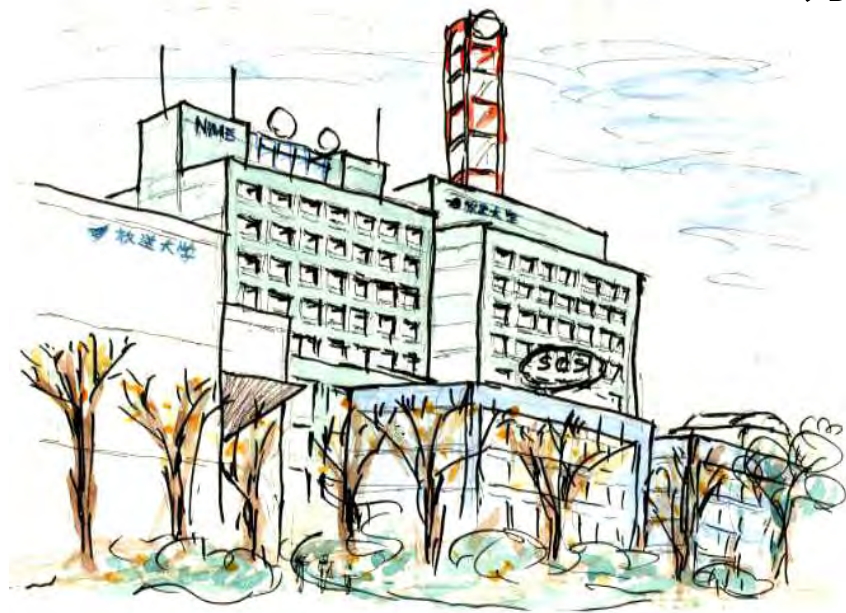
「第3章キャンパスFMの体系化より」

「第5章キャンパスFMを担うスキルより」

掲載事例 — 徳島大学のチャレンジャー —

大学の目指す知的創造モデルと実践例

「ガイドブック2008」の編集概要



「キャンパスFMガイドブック2000」以降の動き

	2000以前	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
研究部会	●ガイドブック2000発行	●キャンパスFM米国調査	●World Workplace Japan 2003	●上智大学調査 ●KAFMでの発表	●法政大学調査	●名古屋大学調査		◎アクションプラン
文科省		●遠山プラン	●学校教育法改正 (第三者機関評価)		●国立大学法人発足 ●第三者機関評価開始	●私立学校法改正 (理事制度・監事制度の改善等)	●国立大学法人 長期借入 減損会計 導入	
		(国立大学等施設緊急整備5か年計画)					(第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画)	
他機関	■文教施設協会発足 ■大学行政管理学会発足			■C-FM組織の見直し (施設マネジメント部 施設運営部、ファシリティ部等)		■国立大学マネジメント研究会発足	■施設マネジメント研究会発足 ■大学行政管理学会 ファシリティマネジメント研究会 発足	
					■「季刊 文教施設」 特集：大学の施設マネジメントの推進			

「キャンパスFMガイドブック2008」の編集方針

■ 「キャンパスFMガイドブック2000」を継承

2000年発行の「キャンパスFMガイドブック」は、国立大学の法人化と相まって民間的手法の導入と言う視点において、その一助となった。

その後、「大学経営」という意識が定着し、2008年版は、これを踏まえ、大学経営を本格的に支援して行くスタンスに立って編集する。

■ 大学経営の支援ツール

一般企業のような経営管理を実施して行くことが難しい大学において、キャンパスFMを実践していく上で、必要な知識や技術を身に付け、各大学が掲げる理念を具現化するために寄与するものとする。

■ 文書化

業務内容、業務手法等を文書化することで、FMの業務をより具体的に理解していただく。また、読書の方に、自分達の業務を洗出し、業務プロセス他関係部署との関係及び業務範囲の線引き等を文書化することの必要性を認識していただく。

■ 管理職をターゲット

原則として、理事会を直接サポートするFM部門の管理職である部長・課長をターゲットとする。初級や中級の担当者には、スキルアップの動機付けになるような情報提供をして行く。

「キャンパスFMガイドブック2008」の目次立て

第1章 プロローグ

- 1.1 前編からの変化
- 1.2 社会的要請
- 1.3 キャンパスFMの狙い

第2章 大学経営支援

- 2.1 大学経営の特徴
- 2.2 大学経営の中のFMの位置付け
- 2.3 新しい経営環境

第3章 キャンパスFMの体系化

- 3.1 FMのリレーションシップ
- 3.2 役割・機能
- 3.3 管理項目
- 3.4 業務体系
- 3.5 組織体系
- 3.6 人事管理体系

第4章 キャンパスFMの進め方

- 4.1 FM業務の洗出し
- 4.2 統括管理
- 4.3 企画・計画
- 4.4 財務
- 4.5 契約
- 4.6 施設整備
- 4.7 管理運営
- 4.8 評価

第5章 キャンパスFMを担うスキル

- 5.1 総論
- 5.2 業務を支えるスキル
- 5.3 課題解決のスキル
- 5.4 信頼関係構築のスキル
- 5.5 コーチングのスキル
- 5.6 計画化のスキル
- 5.7 コンプライアンス遵守のスキル
- 5.8 情報の収集と管理のスキル

第6章 エピローグ

- 6.1 これからのために
- 6.2 ベンチマークセンター
- 6.3 不断の改善

「ガイドブック2008」の内容紹介

「第1章プロローグより」

「第3章キャンパスFMの体系化より」

「第5章キャンパスFMを担うスキルより」



第1章プロローグより
～キャンパスFMの狙いと知識創造空間～

キャンパスFMとは

**「大学という組織体の全施設及び環境を経営的視点から
総合的に企画、管理、活用する経営管理活動」と定義**

（「ガイドブック 2000」）

2008



「大学経営を強力に支援する」スタンス



経営資源であるファシリティの有効活用

FMの基盤である「大学を取り巻く人々」の満足度・知識生産性の向上

地域調和や地球環境保全の尊重（社会貢献）に寄与

キャンパスFMの概念

FMの基盤

学 生: 教育環境の提供

研究者: 研究環境の提供

教職員: 執務環境の提供

企 業: 知の提供
人材の供給

社 会: 文化の供給
科学への貢献

卒業生: 校風の継承

父母 : 教育資源の継承

**空間: 知識創造空間
の提供**

FMの考え方

大学という組織体の全施設及び環境を経営的視点から総合的に
企画・管理・活用する運営管理活動。

**経営陣にはそれらの啓発を行い、
FM'erにはその自覚を促す。**

FMの目標 及び評価

品質 (目標・評価)

- ・ 品格性
- ・ 快適性
- ・ 機能性
- ・ 信頼性
- ・ 適合性

・ 知識創造性

財務 (目標・評価)

- ・ 施設運営費の適性
- ・ 施設関係投資の有効性
- ・ 施設関係資産の効率性
- ・ LCCの把握

供給 (目標・評価)

- ・ 需要対応性
- ・ 施設利用度の把握
- ・ 利用者満足度の把握

継続性 (目標・評価)

FMの目的

社会

環境保全を尊重しつつ、
地域社会との協調・調和に基づいた環境づくりを行う。
積極的に地域社会貢献に参加・寄与する

大学組織

教育研究理念を具現化するため、教育研究目標を設定し、財務
管理をも含めた環境創造を行う。
経営基盤に対する経営支援を行う

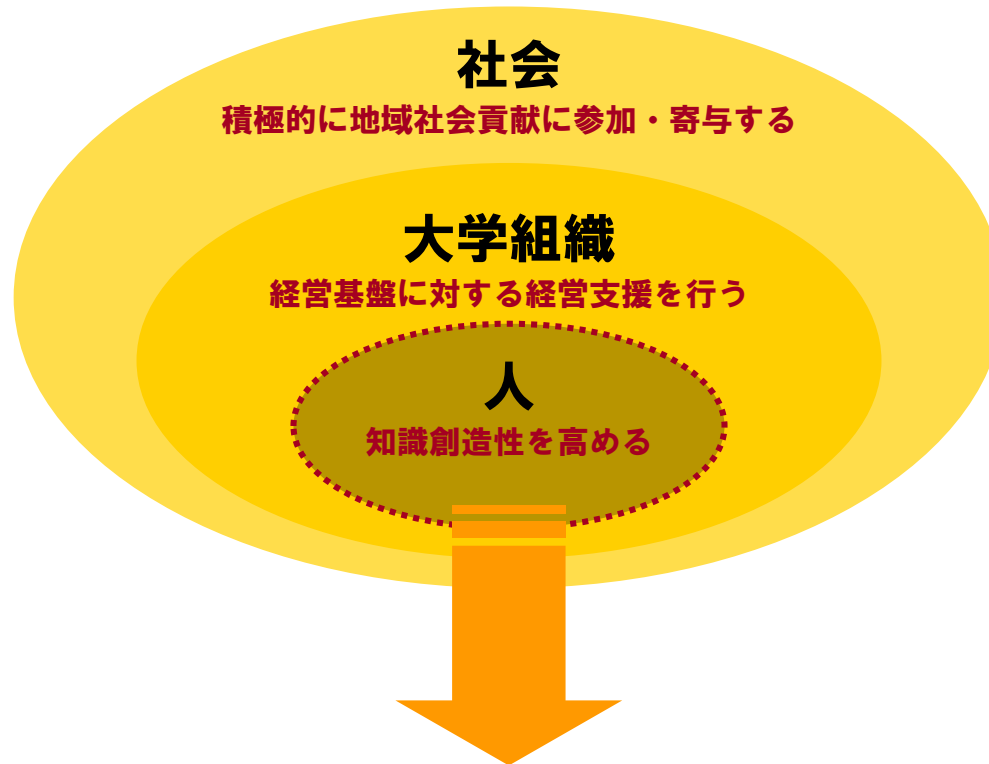
人

人材育成、科学技術への貢献、文化の継承の
ため、人が満足して活動できる環境づくりと継
続的な提供を行う。

知的生産性を高める

キャンパスFMの目的と知識創造性の向上

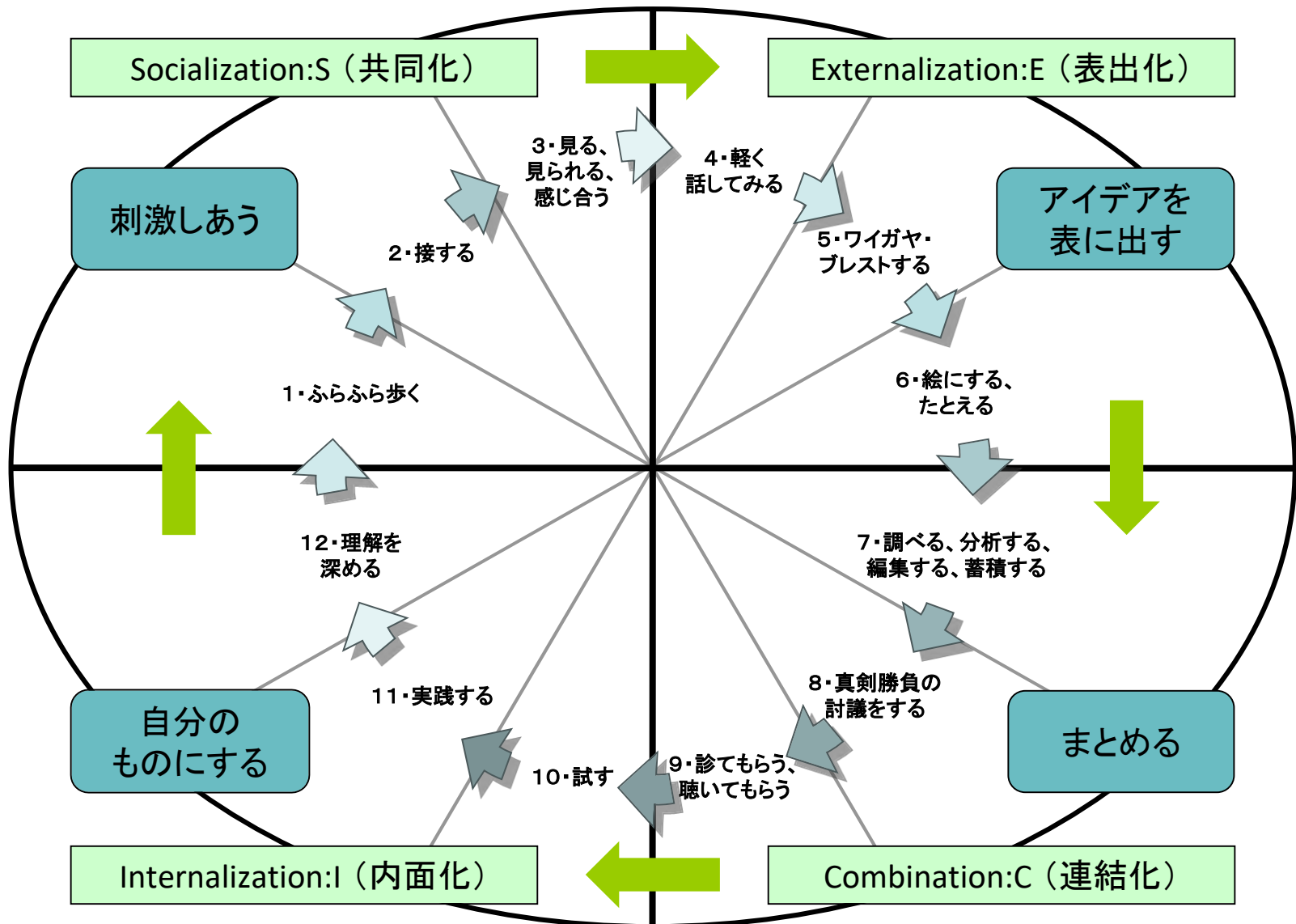
キャンパスFMの目的



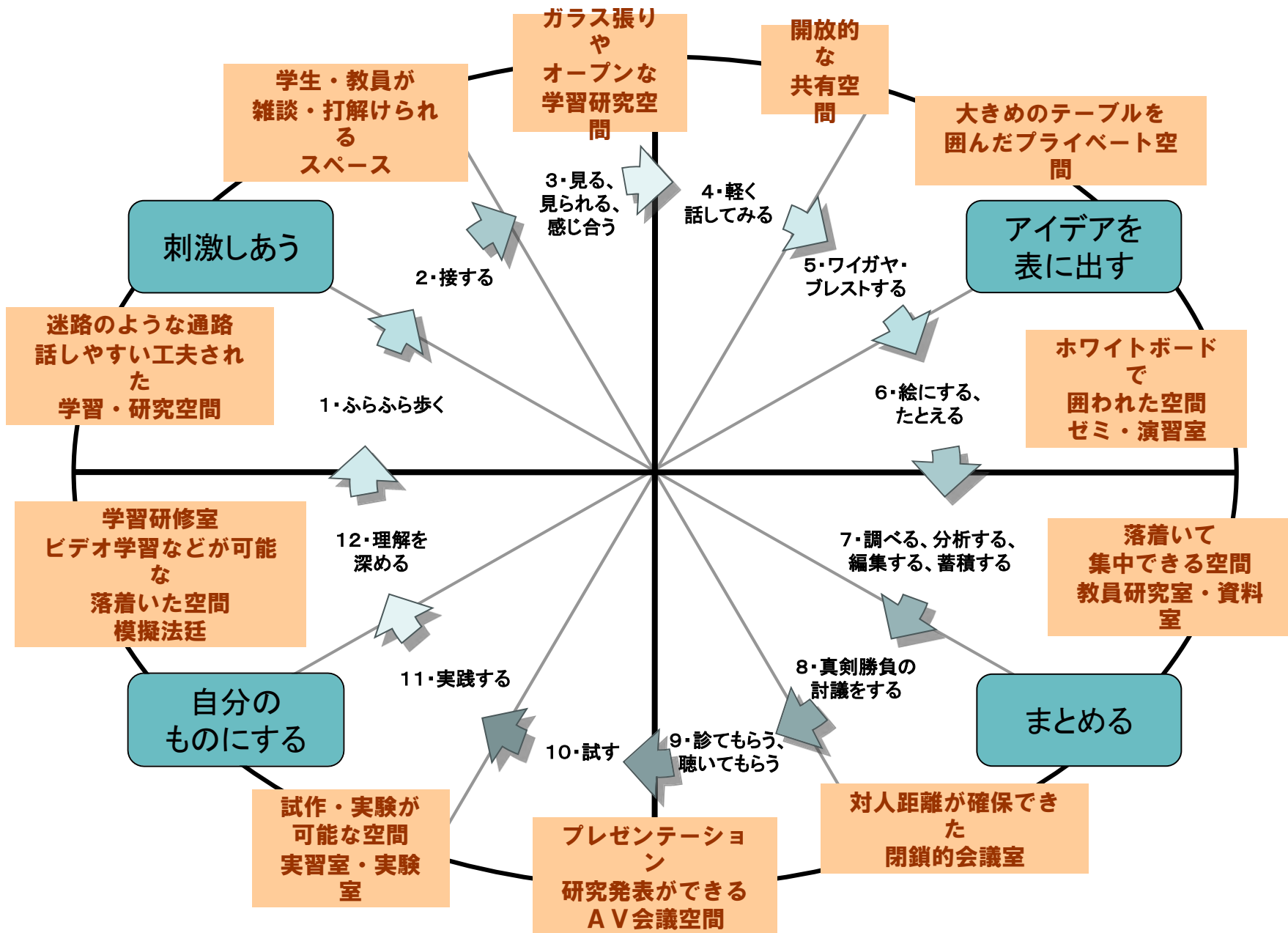
知識創造性のための活動空間（知識創造空間）
課題発見・問題解決能力育成のための空間創出

“ナレッジ・エコノミー（知識経済）の時代”

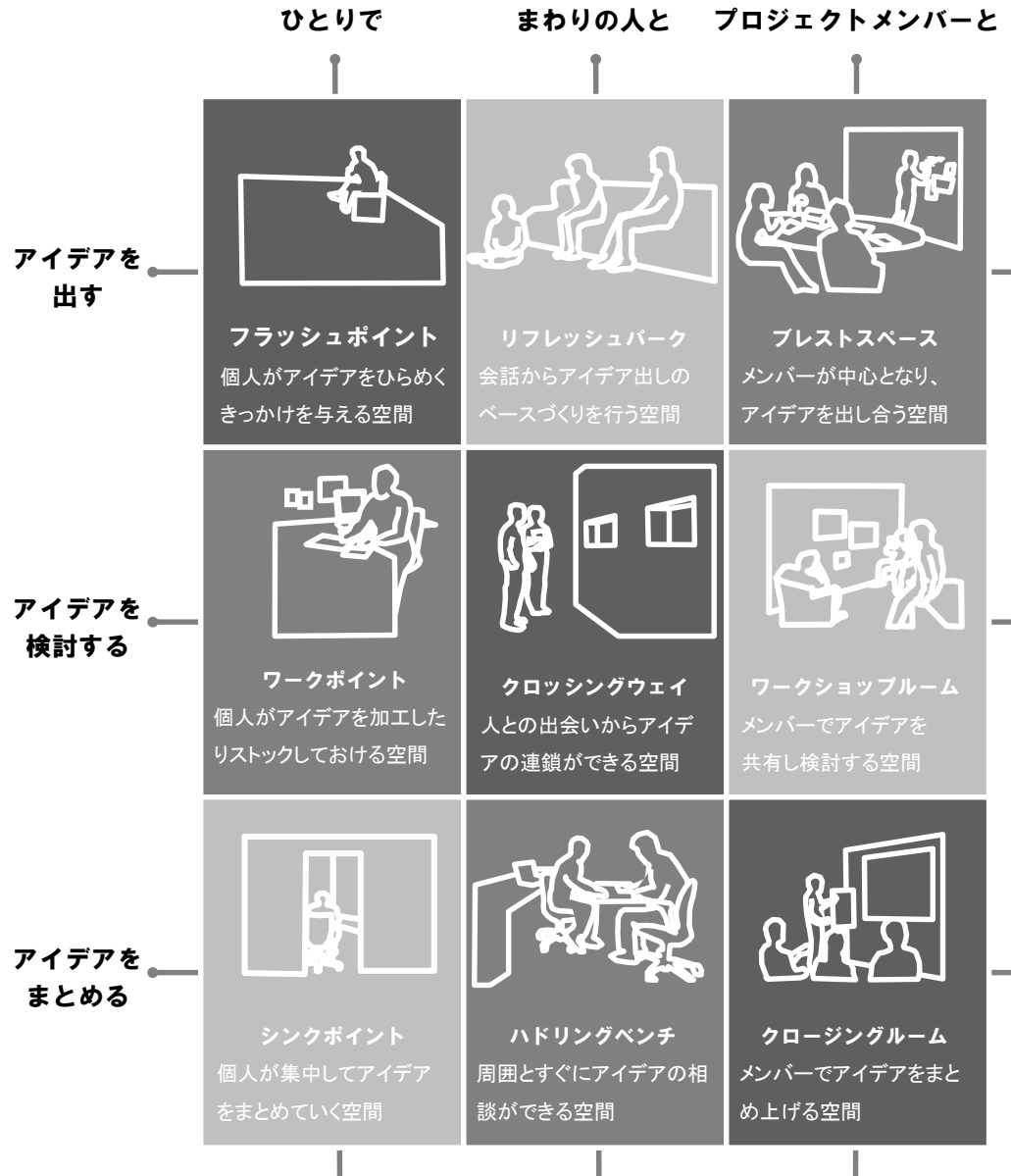
知識創造行動とクリエイティブワークプレイスの概念図



クリエイティブキャンパスと大学の施設空間



知識を創出する場 “9つの空間”



知識創造行動と想定される大学のコンセプト空間

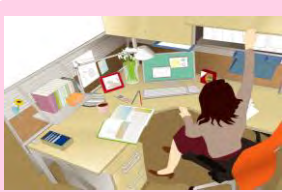
ひとりで

ふらふら歩く



■個人が新しい発想を得る
⇒オープン＆リラックス空間

調べる
分析する
編集・蓄積する



■個人が知識を蓄積・加工する
⇒プライバシーが確保された空間

理解を深める



試す

■個人が知識を集中してまとめる
⇒他と隔離された独立空間

■会話を通じて発想の創造
・転換を行うインフォーマル空間

接する



実践する

軽く
話してみる

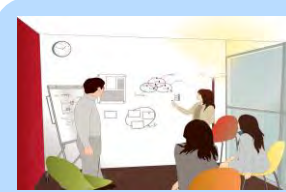
まわりの人と・メンバーと



■仲間で知識の交換ができる
⇒「宿木」のある空間

ワイガヤ
プレストする

見る
見られる
感じ合う



■仲間で知恵を出し合う
⇒一覧性のある掲示可能空間

絵にする
たとえる

診てもら
聞いてもら



■仲間で成果物を検証・評価する
⇒ディスカッションできる空間

真剣勝負の
討議をする

第3章キャンパスFMの体系化より ～キャンパスFMの体系化と構成要素～

FM部門のリレーションシップ

〔外部環境〕

社会性・法令等

影響

〔インサイド〕

文科省
文教施設企画部

経営者
役員会

教職員
学生

受験者
卒業生
寄附者
各界・企業
地域社会

支援

満足度追求

成果

【インサイドパートナーシップ】

キャンパスFM部門

- ・USR対応
- ・地域連携
- ・省エネ
- ・地球環境保全

- ・コールセンタ
- ・POE

- 適切な品質
- 適正な財務
- 的確な供給

- ・モニタリング
- ・技術提案

- ・コスト削減
- ・機能追求
- ・長寿命
- ・品質確保

提供

人材・スキル・ツール

〔内部環境〕

指導

契約

要望

【アウトサイドパートナーシップ】

行政・官庁
文科省私学部等

サプライヤ

近隣住民

〔アウトサイド〕

キャンパスFMの役割・目標と体系 1

(1) 役割・機能



効率経営：

ヒト・モノ・カネ・情報をより効果的・効率的に利用していく機能

付加価値経営：

経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報を活用し新価値を付加する機能

知識創造性向上：

大学本来の目的である知識創造性を向上させる機能

(2) 管理項目



品質管理：

施設に求められる性能評価と利用する人とサポートする人の満足度

財務管理：

財務活動の計画・統制と収益性目標・流動性目標の達成

供給管理：

大学の教育研究活動に対するスペースの適正提供と管理

キャンパスFMの役割・目標と体系 2

(3) 業務体系

- ⇒ 企画・学務・厚生・研究支援・学術支援・国際支援等の「大学の存在意義」に係る業務
- ⇒ 総務・財務・FM・情報等の「バックOFFICE」的業務のサポート体系

(4) 組織体系

- ⇒ 業務体系に基づく「組織のあり方」
- ⇒ 施設利用者である「教職員・学生との連携方策」
- ⇒ FMサプライヤーとのパートナーシップ

(5) 人事管理体系

- ⇒ 大学経営を支援する職員を如何にして育成していくか
- ⇒ キャンパスFMに係る職員の資質向上を目指し、必要とされる職務と職能を明確化・文書化し、役職員に周知させること等について記述

第5章キャンパスFMを担うスキルより
～キャンパスFMに必要なスキルについて～

目的

業務を支えるスキルを網羅的に整理し
キャンパスFMの更なる浸透を目指す

- ⇒ 業務を支えるスキル
- 課題解決のスキル
 - 信頼関係構築のスキル
 - コーチングのスキル
 - 計画化のスキル
 - コンプライアンス遵守のスキル
 - 情報の収集と管理のスキル

職務分析調査票

区分	6. 管理運営—環境保全—環境対策					職能	-
①業務内容							
環境マネジメントに必要な対応業務 環境汚染物質(PCB・アスベスト・ダイオキシン等)のデータ把握と影響度によるレベル設定 定期的な環境測定による変化分析と必要措置の実施							
②知識		③技術		④ツール			
シックハウス対策 アスベスト対策 大気汚染		臭気指数の測定実務		環境マネジメントシステム ISO14001 LCA EHS			
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		
環境基本法 廃棄物処理法 公害防止法 悪臭防止法		特別管理産業廃棄物管理責任者 公害防止管理者 臭気判定士			全部門		

区分	6. 管理運営—環境保全—緑地監理					職能	-
①業務内容							
緑地・樹木・草花の現状把握と資産台帳管理 必要なメンテナンスの実施							
②知識		③技術		④ツール			
緑地管理 園芸							
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		
		樹木医			全部門		

区分	7. 評価—業務評価					職能	-
①業務内容							
施設の点検・評価及び業務評価について関連性等による分析評価 調査における結果を総括し、FM部門・業務に係る年間報告書を作成							
②知識		③技術		④ツール			
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		
					役員会		

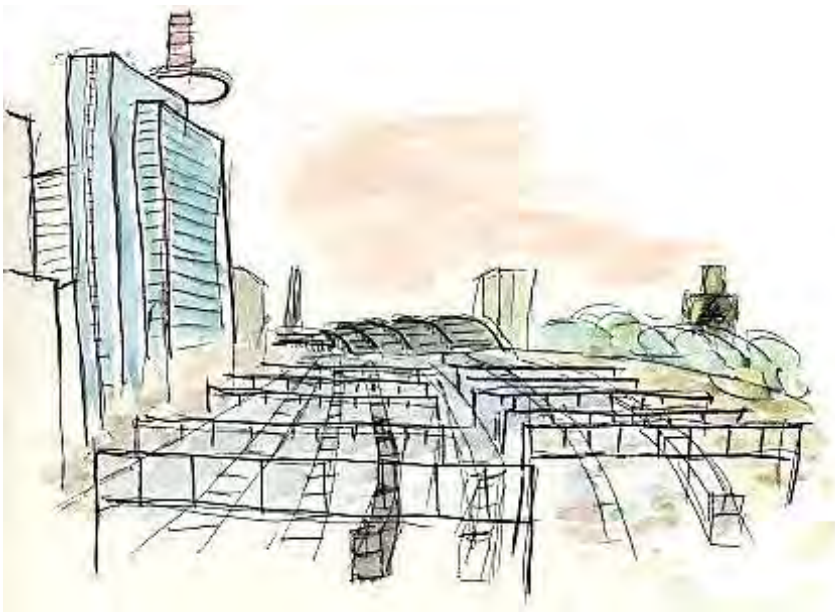
区分	6. 管理運営—施設資産管理—台帳管理					職能	-
①業務内容							
不動産の取得価格による台帳記入 改修等における資本的支出の増減確認と台帳記入及び定期的な現物照合 施設状況の把握による陳腐化や劣化損傷の評価 施設運用状況と減損会計対応							
②知識		③技術		④ツール			
				建物劣化調査票			
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		

区分	6. 管理運営—施設資産管理—利用管理					職能	-
①業務内容							
利用管理体制(管理責任者・利用責任者)の構築と現状把握 利用規程の管理と利用者間のルール作り推進 スペース利用管理による警告と勧告							
②知識		③技術		④ツール			
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		

区分	6. 管理運営—施設資産管理—貸付管理					職能	-
①業務内容							
学外者・競争的資金獲得者等へのスペース公募と受付。 貸与者選定と許可とスペース課金対応							
②知識		③技術		④ツール			
				会議室貸付システム			
法令	関係性	資格	能力	I T	チーム		
		宅地建物取扱主任者 不動産鑑定士			全部門		

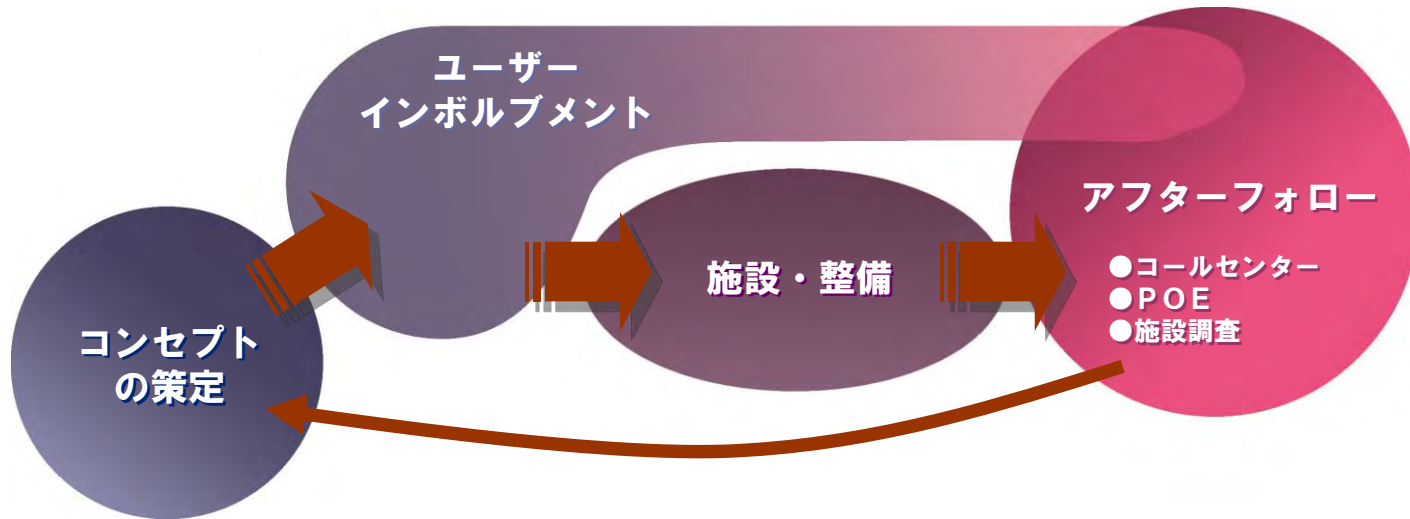
掲載事例 ー徳島大学のチャレンジー

大学の目指す知的創造モデルと実践例



徳島大学のチャレンジ

徳島大学の改修プロジェクトの概要とPOE



■ Stock Plan

- Strategy 革新再構築のための戦略
- Occasion 最適施設環境の誘引
- Check 施設環境の点検評価

■ 既存施設の有効利用

- 意識改革
- 利用規定づくり
- 迅速な運用管理

■ 知識創造空間の創出

- 教員室のスタンダード化
 - 11㎡・17㎡・22㎡
- オープンスペースの提供
 - 目的別実験スペース
 - ミーティングスペース
 - 学生スペース

■ 課題探求能力育成スペースの捻出

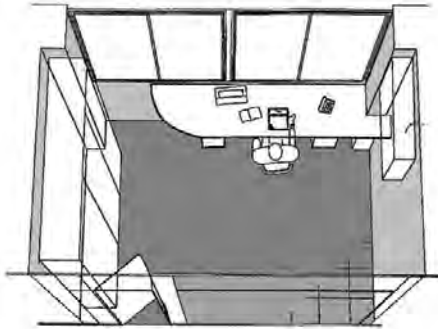
- スタジオプラザ
- 学生スペース

■ プロジェクト研究スペースの提供

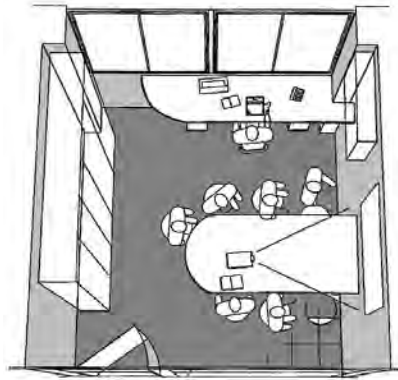
知識創造空間の創出

教員室のスタンダード化

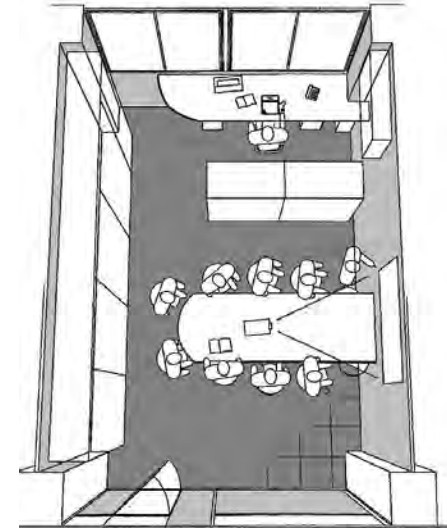
■ 11㎡ 教員室 ■



■ 17㎡ 教員室 ■



■ 22㎡ 教員室 ■



知識創造空間の創出

オープンスペースの提供（薬学部・目的別実験室）



実験スペースは、実験内容によって分別され各研究室共用化

知識創造空間の創出

オープンスペースの提供（学生スペース）（薬学部・医学部栄養学科）



オープン空間に各研究室所属の学部生・院生専用席を提供

課題探求能力育成スペースの捻出

スタジオプラザ（総合科学部）



**教職員と学部学生・院生のために、多目的な空間として開放
利用目的により、休憩場所にも実験実習レポートを書く自習室にもなる**

課題探求能力育成スペースの捻出

スタジオプラザ（薬学部）



プロジェクト研究スペースの提供

コ・ラボ（プロジェクト実験スペース）（医学部栄養学科）



学部・分野を越え全学的に利用可能なコラボレーション型実験スペース

POE調査結果

●オープンスペースの提供の成果

実験・研究スペースについて自由意見（薬学部）

⇒ 「明るい広い・十分なスペースがある」「自由に使える」等肯定的意見 38%

「他の学生と研究内容その他について話をしやすい環境になっている」

「研究・実験スペース間のコミュニケーションが良い」

⇒ 「寒い」

「有機試薬や動物の臭気が全体に蔓延する」（環境面） 30%

「実験中の事故に対して居室全体が被爆する」（安全面） 15%

●課題探求能力育成スペースの成果

スタジオプラザの利用率と利用目的（総合科学部）

⇒ 「日常よく利用している」 30%

⇒ 「休憩・談話（飲食含む）」 43%
「自習（レポート作成含む）」 26%

POE調査結果

●オープンスペースの提供の成果

グループの教員や大学院生からの指導・助言が受けやすくなった



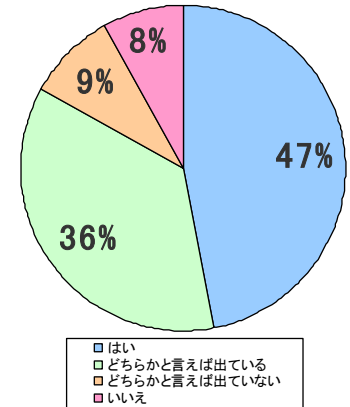
成果が出ている 全体の83% (薬学部)

自席 (占有学習スペース) の環境について



満足・どちらかといえば満足 全体の75% (栄養学科)

教員や大学院生からの指導・助言は受けやすくなる効果が出ていますか



●第三者的評価における成果

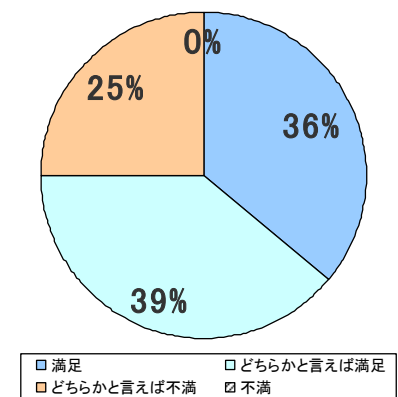
平成13年度国立学校優秀施設表彰

「文教施設部長賞リニューアル部門」受賞 (薬学部研究実験棟)

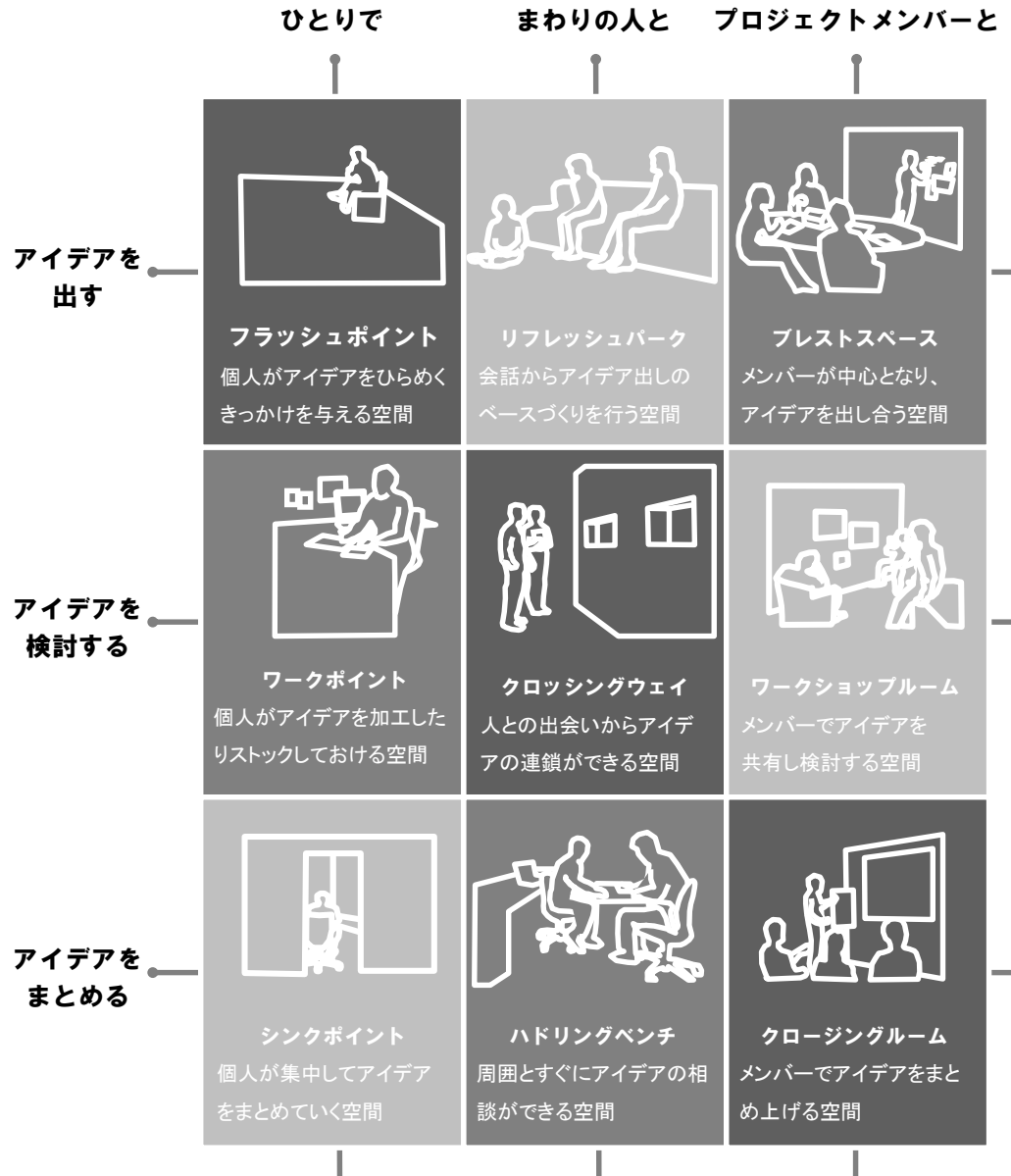
平成15年度国立学校優秀施設表彰

「文教施設部長賞リニューアル部門」受賞 (電気電子工学科棟)

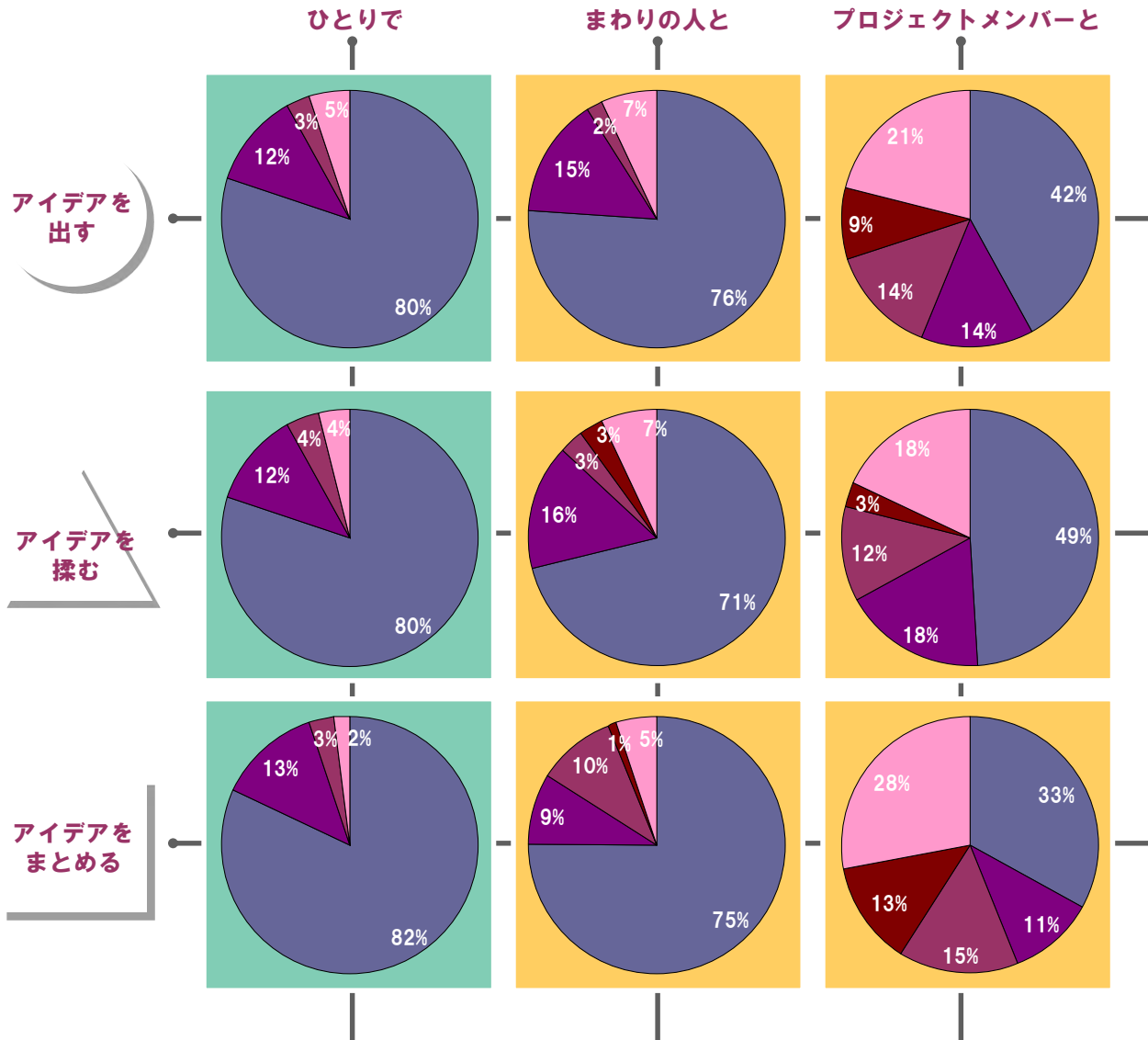
自席の環境について



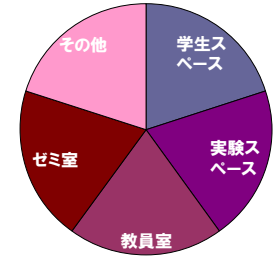
実際の施設空間と知識創造空間の関連性



実際の施設空間と知識創造空間の関連性



【グラフ凡例】



【学生スペース】



【実験スペース】



【教員室】



資料などのご要望ございましたら

JFMAキャンパスFM研究部会・部会長

藤村 達雄

fujimura1234@yahoo.co.jp

部会員

前田 明洋

Akihiro_Maeda@okamura.co.jp

までご連絡ください。

ご清聴ありがとうございました。